



守る・育てる～北風と太陽～

ついこの間まで体の芯まで凍えてしまいそうな風が吹いて、早く暖かくなならないものかと。暑くなると涼しい方がいいなどとホントに人間て身勝手な生き物だと思います。自分もその一人ですが・・・笑

イソップ物語の”北風と太陽”の話があります。

旅人が分厚いマントを自ら脱ぐように仕向ける力量をもっていたのは、ご承知のように太陽でした。私たちは多分誰もが、周りをポカポカと暖かく包み込む太陽のごとくありたいとの憧れや願望を抱くと思います。

そのようなことは至極もったいなことで、異論を差し挟むつもりはことさらありません。た

だ、この頃考えることは、このことに付け加えて、”北風”のもつ深い意義とその再評価のことです。つまり、北風の冷たさや厳しさも、私たちが人として成長していくためには逆に欠かせないものではないかということです。子どもたちも、いつかは親元を離れて広い社会に一人で漕ぎ出していきます。そこは、必ずしも太陽に包み込まれたような桃源郷ばかりではありません。むしろ、厳しい現実や辛い境遇が数多く待ち受けている方が多いかもしれません。とすると、だからこそ、それらに耐えうる力、乗り越えていける力を今のうちに身に付けてあげることが私たちの重要な責務



今日の自分は昨日の自分ではない。

日々の小さな出来事や経験の積み重ねが、今の自分をつくっている。自信をもっている。

一年前の自分とは決して同じではないのだから。

ではないかということです。従って、我が子が真に可愛いのであれば、生きる力を備えた心身共にたくましい人間に成長してほしいからこそ、敢えて寒風にさらす、適度な負荷を与えることが大切だと考えます。

余談になりますが、大根、白菜、人参など冬野菜は辛い冬の寒さをしのぎながら、一段と甘く育っていきます。時には、畑の土も凍てつくことがあります。不思議なことに葉や根はまず凍ることはありません。なぜか？ 植物生理学者によりますと、それは、寒さをしのぐ術を身に付けているからだそうです。つまり、葉や根の中に凍らないための物質（特に糖分）を増やす仕組みをもっているのだそうです。そういえば高校時代、化学の時間に「凝固点降下」って習ったような?! 「液体に揮発しない物質がたくさん溶け込めば溶け込むほど凝固点が低くなる」という現象です。

野菜たちは、寒さを受けることによって、葉や根に糖分はもちろんビタミンなどの量もぐんと増やすことで一層凍りにくくなるとのことです。

私たち親は、我が子を『守る』ことにはよく目が向きます。それももちろん状況に応じて必要ですが、両輪の車として、『育てる』視点も決して忘れてはならないことだと思います。

『守る』という愛情の行為には”太陽”の要素が、『育てる』には”北風”の要素が色濃く出てくるのではないのでしょうか。このように考えると、愛すべき我が子には、太陽の神アポロンの心で接するとともに、北風の神ボアレスの教育力も是非生かしていきたいものです。心身共にたくましく自分の人生を切り開くための糖やビタミンを出せる子どもたちに育てるために。その自立の基礎を培うのが幼児期なのです。



美味しい
カレー

植える
育てる
食べる

霧の中を行けば覚えず 濡れる

霧は極小の水滴です。その中を歩いても、衣服がずぶぬれなどということはありません。しかし、長時間歩くとどうでしょう、衣服はしっとり濡れてきます。

私たちが子どもの躰や教育を考えると、「～をなささい」「～はしていきません」などと言葉での様々な指導を考えがちですが、この言葉はそれも大事だが、日頃の『環境』がもっと大切だということを教えている言葉のようです。

さりげなく靴を揃えるお母さん。記念日の食卓を飾る一輪の花。新聞を持ってきた子どもへのありがとうの言葉。起きがけのおはようの挨拶。いただきます・ごちそうさま。こんな『霧』に囲まれて育った子どもは、どんな大人になるでしょう。

反対に、朝から小言。子どもの短所だけが目に付く。隣と比較しての愚痴。テレビは暴力・馬鹿笑い番組ばかり。こんな『霧』の中で生活した子どもはどうなるでしょう。

『しつけ』は『躰』と書きます。『身を美しく』と分解できます。なるほどです。ところで、この『しつけ』を『し・つづける』と解釈している人もいます。これもなるほどです。大上段に振りかぶった『お説教』でなくて、毎日の積み重ねの大事さに視点をおいた解釈です。

今、皆様の家族はどのような『霧』の中で生活しているのでしょうか。『笑い』『挨拶』『優しい言葉』『思いやり』『助け合い』『我慢』『厳しさ』『根性』『協力』・・・錦江幼稚園の子どもたちのお家はこんな『霧』に包まれていて欲しいと思います。

神様じゃあるまいし、こんなことがいっぺんにできるはずがありません。今皆様の家中に流れている『霧』のほかに、もう一つ自分の好みの『霧』であなたの家をあたたく包んで欲しいと思います。